広報つるが　令和２年８月号
No.942（令和２年７月14日発行）

つるがで輝くあの人を紹介

まちのキラリびと

新たに作成した神楽パック

参道灯り茶屋

リノベーションスクール「敦賀Rハッカソン」

顔出しパネル

うまくいかないことがほとんど。
ダメ元でやっていこう。

氣比さん参道いきいき会議　代表
谷口　正宏さん（60）

神楽門前町の活性化を目指して

敦賀のレガシーである「氣比神宮」は、年間70万人が訪れる一大観光スポット。北陸新幹線敦賀延伸を見据え、観光客を取り込むために、平成29年に商店街・地元有志・まちづくり会社・行政・関係機関などで「活き活き神楽門前町会議」を立ち上げ、各店舗の魅力向上や空き店舗解消、賑わいの創出を目指して活動を始めました。

「地元の人間だけでなく、まちづくりに興味がある人や若者などに参加してもらい、新しい発想やアイデアを取り入れよう」と平成31年3月に現在の「氣比さん参道いきいき会議」に発展させました。今では様々な世代や地域の方に参加してもらい、イベント・空き店舗の活用や新しい事業の企画に取り組んでいます。

「門前町である『神楽』へたくさんの人に関心を持ってもらい、足を運んでもらいたい。そして、次の世代につなげたい。」を念頭に、個々の商店の魅力を高めるのはもちろんのこと、新しい発見ができるような取組みを増やしていきたいと考えています。

今は、感染症の影響で、思うように活動ができていませんが、皆さんに足を運んでもらえる氣比神宮前になるよう、頑張っていきたいと思います。

まちの宝を発見！

つるが歴史遺産

案内人
学芸員　坂東佳子

湊のシンボルです！

基本情報

種別：日本遺産　～北前船寄港地・船主集落～構成文化財（平成29年4月認定）
福井県指定史跡（平成4年5月指定）
享和2年（1802年）完成
所在地：川崎町

洲崎の高燈籠

高燈籠…敦賀湊の原風景

江戸時代、敦賀湊への入船は、寛文期（1661年～）に2，600艘前後を誇りましたが、西廻り航路の影響で明和期（1764年～）には500艘に激減しました。この打撃を緩和したのが「茶の輸出」と「松前貿易」であったと、昔の本に書かれています。

「北国は寒き故茶なし」（貝原益軒『諸州巡覧記』より）と、敦賀から以北の国々に茶を輸出した商売は、元々「今橋々爪」であった町の名が、茶問屋が多くなったため「茶町」と変化して呼ばれるようになるまで大繁盛しました。やがて北国でも茶の栽培が行われるようになり、近世後期には茶町は衰退し、残るは町名だけとなります。

一方、松前貿易はニシンや昆布などの移入と、敦賀産の釘や、紙、石灰、縄筵などの移出が明治期、鉄道が開通するまで続きます。この多くのいわゆる「松前物」を運んだ「北海を往かよふ船（北前船）」（『敦賀志』より）が目印としたのが、「茶町」（現在の川崎町）の一角、「洲崎」とも呼ばれた場所に建てられた高燈籠でした。

現在のように整備された道が出来るまで、海辺の集落の人々が敦賀の町に行く時は漁船に便乗するのが常でした。湾内では高燈籠を目印に川を上り魚市場で上陸したと言います。茶町の衰退と、松前物の盛況と、洲崎の高燈籠は江戸時代から現在まで湊の原風景を今に伝えています。

広報担当者のつぶやき

小学校が再開し、新１年生の長女に、集団登校の集合場所まで、妻が付き添っていますが、２歳の次男は母親の姿が見えなくなると、ギャン泣きです。帰ってくるまでの５分間は、泣き止みません。双子の長男は、長女達をニコニコして見送ってくれます。個性が違うから、楽しいけれど、いまだに子育てに悪戦苦闘の毎日です。（K）

表紙のホタルは葉原で撮影。きれいなホタルがたくさん飛んでいました。最近マイカメラを購入したので、良い写真を撮ろうと意気込んで挑みましたが、とても難しかったです。カメラ購入の際、ホタルくらいたくさんの諭吉が飛んでいったので、プライベートでもたくさん写真を撮って腕を磨きたいと思います。（M）

発行：敦賀市　編集：秘書広報課
印刷：若越印刷株式会社

〒914-8501 福井県敦賀市中央町２丁目１番１号
TEL 0770-22-8112／FAX 0770-22-8170
E-mail kouhou@ton21.ne.jp

●広報つるが　毎月第2火曜日発行
●行政チャンネル（RCN 091ch）
毎日６時～24時放映（週３回入替）
●市政広報ラジオ（敦賀FM放送 77.9MHz）
平日４分番組・12回放送
●HP https://www.city.tsuruga.lg.jp/